

酒類・加工食品業界の業務効率化と標準化推進をめざす [ファイン・ファイネット]

FINE FINET

[NEW YEAR TOP MESSAGE]

平成30年 年頭にあたって

株式会社ファイネット

代表取締役社長

大谷 邦夫

[FINET User's Voice]

調達業務で資材VANサービスを活用。 “働き方改革”を推進!

～マルハニチロ様～

[FINET INFORMATION]

商品情報授受の標準化に向けた 業界の取組み

～商品情報授受標準化会議(PITS)について～

酒類・加工食品業界の 標準化推進に向けた取組み

～酒類・加工食品業界標準化推進会議について～

[HELPDESK NEWS]

手続きサイトのご紹介



Vol. **45**
2018 Winter
ファイネット発行

平成30年 年頭にあたって

代表取締役社長
大谷 邦夫



会員企業の皆様、新年明けましておめでとうございます。

旧年中はファイネット事業に一方ならぬご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

酒類・食品業界は円安や諸要因によるコスト増、消費者の節約志向もあり、依然として厳しい販売競争を余儀なくされています。このような事業環境のなか、昨年3月には物流コスト軽減の一助として、新データ種「事前出荷情報（ASN）」を追加対応し、10月には商品流通VANサービス料金を平均7.3%値下げする料金改定を実施いたしました。

本年も「円滑なサービス運営」「顧客満足度の向上」「標準化推進活動を通じた業界貢献」の3つの指標を事業目標に掲げ、計画の達成に向けて全社一丸となって邁進する所存でございます。

皆様のシステムインフラを担う企業として、コストダウンや新サービスの提供に取り組んでまいりますので、昨年に引き続きどうぞよろしくごお願い申し上げます。

調達業務で資材VANサービスを活用。 “働き方改革”を推進！



原料・資材の調達業務で資材VANサービスを活用して業務効率化を進めているマルハニチロ生産管理部様に取り組み状況をうかがいました。

マルハニチロ株式会社

生産管理部 調達課 課長 橋本 一郎様
生産管理部 調達課 課長役 日高 耕生様
生産管理部 生産管理課 副主任 山本 亜紀子様

会社組織の変化とともに歩んだEDI推進

——調達業務におけるEDIの導入状況について教えてください。

橋本 当社は、2004年に旧マルハの直営3工場で資材VANサービスを導入しEDIをスタートしました。工場における原料・資材の発注や買掛照合、また、本社における支払入力に多くの人手がかかっており、これらの作業の効率化が大きな課題でした。解決策として、購買管理システムを整備するとともにEDIを通じて購買情報（発注、請求情報）をデータ化することにより、作業の自動化を進めました。その後、旧ニチロや旧アクリフーズとの会社統合を経て、現在は直営工場を中心に10工場でEDIを導入し、サプライヤー175社と接続を行っています。この10工場については、支払金額ベースで82%がEDI化されています。

——工場にEDIを導入するにあたり、壁のようなものはあったのでしょうか。

橋本 会社母体ごとに調達に対する考え方は異なりましたが、発注や買掛照合の作業内容は各社ほぼ同じでした。旧マルハで導入していたEDIを旧ニチロ、旧アクリフーズに展開することについては、作業の手段が変わるだけなので、大きな壁は無いと考えていました。

山本 旧ニチロでEDIを導入する時でしたが、発注訂正や取消、発注数量と納入数量が異なる場合の処理など、作業の細かい内容について工場の担当者からたくさん質問を受けました。FAX、電話、伝票ベースの作業に慣れていたので、システムを通じた作業に大きな不安があったのだと感じました。EDIスタート時のフォローではシステム操作手順とともに、EDIによって得られるメリットについて丁寧に説明し理解を求めました。スタートこそ苦労しましたが、その後は比較的短期間で慣れていただきました。EDI導入により作業負荷が軽くなったことを実感できるようになり、EDIに対する理解が広まったのだと思います。

橋本 長年慣れた作業のやり方を変えることは、誰もが抵抗を持つと思います。旧アクリフーズではEDI導入後、しばらくの間はフォローに苦労しました。最近では担当者から作業が楽になって良かったという評価を得ています。以前は残業して対応していた月末月初の作業の山を解消できた点が大きかったようです。10工場までEDIを展開できたのは、担当者がEDIのメリットに気づき、新しい作業に積極的になり、最終的に作業が楽になったという実感を持ってもらえたからです。



生産管理部 調達課
課長 橋本 一郎様

EDI導入がもたらすプラス効果とは!

——月末月初の作業の山が平準化されることはインパクトが大きいことなのでしょうか。

橋本 要員体制に大きく影響します。作業の山に合わせて要員は配置できません。月末月初に作業の山があることは、その間担当者に大きな負担がかかります。本社では工場の照合結果を踏まえて、月初3日間で支払処理を行います。支払処理に集中できれば良いのですが、実際は他の業務が頻繁に割り込んできます。

日高 支払処理は私1名で行っています。EDI導入により工場での買掛照合作業が早く完了するようになり、支払処理も短時間でこなせるようになりました。急に他の業務が割り込んできてもスムーズに対応できています。



生産管理部 調達課
課長役 日高 耕生様

山本 EDIを利用し当課で管理する買掛は、旧ニチロ、旧アクリフーズと統合する前の10年前と比較して、支払金額ベースで約4倍の規模になりました。取引規模が大きく変わっているのにも関わらず、導入当初から要員を増やすことなく対応できています。EDI導入によって作業の自動化が進んだからこそなのです。

——他にEDI導入によるプラス効果はございますか。

橋本 購買管理システムを通じ、各工場における購買実態を本社がリアルに把握できるようになりました。

山本 工場でも購買履歴をスムーズに確認できるようになりました。以前であれば、サプライヤーの納期回答や納品実績は、大量にある返信FAXや納品伝票から探す必要がありました。



生産管理部 生産管理課
副主任 山本 亜紀子様

橋本 また、人に付いていた業務が標準化され、引継ぎがスムーズになりました。工場がISOを取得しているため、自然環境への配慮という要素もありますが、ペーパーレス化への意識も高まっています。

EDIは調達業務における働き方改革を後押しする!

——EDIは働き方を変えることに繋がるのでしょうか。

橋本 工場における事務作業は、今後ますますシステム

によって補われていくのだと思います。特に生産部門は細かいミスでも許されません。作業の自動化によって担当者の精神的負担を軽減できることは、作業ミスや事故を防ぐ観点から大きなメリットなのです。人材確保が困難な現在において、自動化が可能な作業をいかにシステムに置き換えていくかが鍵を握ります。当社は、生産ラインにおける作業の自動化を優先して進めてきましたが、間接業務は置き去りとなっていました。資材VANサービスの活用によって間接業務を効率良いやり方に変えることができたのは大きな改革です。働き方改革の1つとして在宅勤務のケースがあります。工場の作業を在宅勤務にシフトすることはかなり難しい気がしますが、作業の自動化を進めるとともに、生産業務と間接業務とで担当者の棲み分けができれば、間接業務については在宅勤務でも対応可能な時代が来るのかもしれない。

——EDIに関する今後の展開予定はいかがでしょうか。

橋本 現在、工場に新しい生産管理システムを導入しています。新システムでは生産計画情報と在庫情報が連携されるので、まずはEDI導入工場において、より精度の高い発注を目指します。また、将来的にはEDIを導入していない関係会社の工場にも展開できればと考えています。

——最後にファイネットへのご要望等がございますか。

橋本 資材VANサービスについては、利用メーカーの拡大に尽きます。利用メーカーが増えれば、接続相手となるサプライヤーにとっても作業の自動化を進めやすくなり、EDI導入のメリットが大きくなります。そうなれば、当社もサプライヤーとのさらなる接続拡大がスムーズになると思います。調達業務の効率化を検討されているメーカーがいらっしゃれば、資材VANサービスを活用した業務の効率化について、参考情報を提供できればと思います。

マルハニチロ



2017年10月をもって、マルハニチログループ誕生から10周年を迎えることができました。マルハニチログループではその水産物調達の分野で大きな役割を担い、漁業、養殖事業をはじめ、世界から水産物を買付け、加工し、販売しています。世界を結ぶ独自のネットワークで、漁獲から食卓までのあらゆるプロセスをプロデュースしています。近年、そのビジネス環境は世界人口の増加、食文化の多様化、安心・安全への意識の高まり、医療・健康分野との融合など日々変化を見せています。マルハニチログループは、「食」において、これまで培ってきた技術力・商品力・調達力を活かし、グローバルな視点でより新しい価値を世界各国の食卓に向けてお届けします。

商品情報授受の標準化に向けた業界の取り組み

～商品情報授受標準化会議(PITS)について～

食の安心・安全に対する関心の高まりを背景に、商品規格書作成・商品情報データ入力など、商品情報授受にかかるメーカー・卸の業務負荷は年々増えており、その効率化・標準化は業界全体の課題となっています。当社は商品情報授受標準化会議(PITS)の事務局として、商品情報授受の効率化・標準化を支援しています。

1 ▶ 商品情報授受標準化会議(通称:PITS)とは?

2013年5月に設立された、PITS(ピッツ、Product Information Transfer Standardの略称)は、食品業界における商品情報に関する標準的な項目と授受方法の策定・普及を目的とした、製・配・販3層+業界団体・データベース事業者など、有志の企業・団体による会議体です。

【加盟企業・団体】

〈議長企業〉味の素(株)、(株)ニチレイフーズ
〈幹事企業〉味の素(株)、イオントップバリュ(株)、国分グループ本社(株)、(株)トーヨー、(株)ニチレイフーズ、三菱食品(株)
〈参加企業〉製造業17社、卸売業11社、小売業3社、賛同団体4団体、賛同企業9社
〈事務局〉(株)ファイネット

【活動経緯】

2013年5月 PITS設立、【品質230】維持管理の受入れ
2013年12月 「PITS標準項目」「PITS標準フォーム」策定
2014年5月 「PITS標準項目」「PITS標準フォーム」改定(アレルギー物質:カシューナッツ、ごまの追加)
2015年11月 「PITS標準項目 第1版」「PITS標準フォーム 第1版」策定(農林水産省補助事業成果物への準拠)
2017年11月 「PITS標準項目 第2版」策定(製造所名・住所、加工所名・住所の追加)



2017年11月28日第8回総会

2 ▶ 「PITS標準項目」「PITS標準フォーム」とは?

PITSでは「PITS標準項目」および「PITS標準フォーム」を策定し、その普及推進による食品業界における商品情報授受の効率化・標準化を目指しています。これらは平成26年度農林水産省補助事業「標準商品規格書とそのガイドラインの検討会」で策定された内容に準拠しています。

「PITS標準項目 第2版」

法令や食品流通の商習慣などを考慮し、商品情報のうち標準となる100項目とその定義を定めたもの

「PITS標準フォーム 第1版」

PITS標準項目のうち、商品規格書として必要な64項目をA4一枚で表現した規格書書式

「PITS標準項目 第2版」「PITS標準フォーム 第1版」はファイネットホームページからダウンロードいただけます。

<https://www.finet.co.jp/hyojyunka/pits.html>

使用権フリーなのでどなたでもご利用いただけます。

自社書式がない企業の方や、得意先からの書式指定がない場合など、是非ご活用ください。

◆PITSに関するお問い合わせ先◆

PITS事務局(株式会社ファイネット 企画部) 【TEL】 03-5643-3430 【e-mail】 kikakukaihatu@finet.co.jp

酒類・加工食品業界の標準化推進に向けた取組み

～酒類・加工食品業界標準化推進会議について～

当社は、酒類・加工食品業界の【標準化】を強力に推進するため、事務局として2003年10月に「酒類・加工食品業界標準化推進会議」を立ち上げ、メーカー、卸店に参画いただきながら、業界の課題解決に向けた活動を続けています。

1 ▶ 発足の背景

2000年前後から、外資系小売業の国内参入が相次ぎ、当業界のみではなく日用品・化粧品業界も巻き込んだ【国際標準】への対応を検討する気運が高まっていました。

そのような状況の中、2002年のGCI[※]研究会設立を経て、2005年からは日本GCI推進協議会（GCIジャパン、2013年3月解散）として、製・配・販三層すべてが集う、大規模な会議体ができあがりました。

GCIジャパンの会議体において、議論・検討を進める上で当業界のメーカー、卸店として、まとまって意見を言う必要があり、その意見集約、共有の場が求められるようになりました。小売業はもちろんのこと、前述のように日用品・化粧品業界のメーカー、卸店も参加しており、当業界として統一見解を持つ必要がありました。

※GCI：Global Commerce Initiative

2 ▶ 「酒類・加工食品業界標準化推進会議」の発足

上記の背景を受けて、発足当初、メーカー25社、卸店9社、合計34社の参画により、スタートしました。

本会議は、酒類・加工食品業界のメーカーと卸店を中心とした商取引等に関する各種情報交換業務の標準化を推進することで、業界全体の発展に寄与することを目的としています。

また、これを達成するために、

- ・問題意識やニーズの高い標準化すべきテーマを取り上げ、議論し方向づけを行ない、標準化を実施し普及推進する
- ・標準化の必要性が高まる可能性のあるテーマを取り上げ、情報交換を行ない、将来に向けての認識の共有を図るの2点を挙げ、標準化を推進していくとしています。

3 ▶ 近年の活動内容

2015年2月 物流情報検討部会

- ～同年7月
- ・出荷配送依頼、納入実績、運賃請求、倉庫料（保管料）、事前出荷情報（ASN）を策定した
 - ・事前出荷情報（ASN）は、日食協標準EDIフォーマットとして、日食協のホームページに運用基準書が掲載されている
 - ・また、事前出荷情報（ASN）は、当社商品流通VANの1データ種として追加した（2017年3月～）

2016年7月 統一取引先コード利用促進部会

- ～継続中
- ・「統一取引先コード」を利用していく上の課題と解決策、運用ルールを整理し、本会議体メンバーが率先して実務で活用していくことを目的として検討を開始した

2017年3月 勉強会「製・配・販連携協議会の活動概要について」～（公財）流通経済研究所

2017年4月～ 規程を定め運営体制の見直し

- ・より高い参画意識を醸成することを目的に、メンバー企業から議長、幹事を選任し、運営に参画いただく

2017年5月 勉強会「新メンバー向け入門編」～事務局

2017年8月 勉強会「ASN活用とリードタイム工夫による検品レス」～加藤産業(株)、キューピー(株)

2017年12月 出荷案内不定貫対応検討部会（仮称）

- ～継続中
- ・出荷案内の数量欄は、整数のみで少数点以下をセットすることができない。また、ケースと重量を同時に表現できない等、不具合があり、その対応を検討する。

2017年12月 第73回全体会議（3ヵ月ごとの開催）

◆「酒類・加工食品業界標準化推進会議」に関するお問い合わせ先◆

事務局（株式会社ファイネット 企画部）【TEL】03-5643-3430 【e-mail】kikakukaihatu@finet.co.jp

手続きサイトのご紹介

ファイネットでは、ユーザー様の各種手続きにお申込み専用のWebサイト「手続きサイト」をご利用いただいております。今回は、インターネット手順への通信手順切替え時のお申込み方法および、昨年秋にリニューアルしたFAQページについてご紹介いたします。

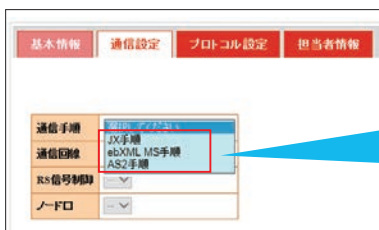
◆インターネット手順への切替えについて

NTTよりINSネットのデジタル通信モード提供終了が発表されていることもあり、多くのユーザー様がインターネット手順への移行を進められております。インターネット手順は災害に強い通信インフラ（インターネット網）となり、さらなる通信速度の高速化（10Mbps～100Mbps）が期待できると共にデータ交換における電話（通話）料金が掛らなくなります。

◆インターネット手順への切替え時のお申込み方法

インターネット手順への切替えにつきましては、手続きサイトにてお申込みを受付しております。お申込みからご利用開始までの流れは以下のとおりです。

- Step1 ユーザー様よりインターネット手順用「ステーション追加」のお申込み（**手続きサイト**）
 Step2 ファイネットより設定内容のご通知（郵送）
 Step3 ユーザー様とファイネット間での事前接続確認テスト（**手続きサイト**）
 Step4 ユーザー様より「インターネット手順への切替」のお申込み（**手続きサイト**）
 Step5 ご利用開始



インターネット手順は以下の3手順に対応しております。

- ・ JX 手順
- ・ ebXML MS 手順
- ・ AS2 手順

通信手順	通信速度	通信方式	普及率	導入費用	導入の難易度	特長
① JX 手順	10M～100Mbps	Pull型 ^{※1}	高	比較的安価	比較的容易	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本独自の通信手順 ・ PCにも導入可能、小中規模システム向け ・ サーバー間通信ではないため、②③と比較して導入のハードルは低い
② ebXML MS 手順	10M～100Mbps	Push型 ^{※2}	中	高額	高	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際標準の通信手順、主にアジア圏で利用拡大 ・ サーバー間通信、大規模システム向け ・ インターネット接続のため相応のセキュリティ対策が必要
③ AS2 手順	10M～100Mbps	Push型 ^{※2}	低	高額	高	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際標準の通信手順、主に欧米圏で利用拡大 ・ サーバー間通信、大規模システム向け ・ インターネット接続のため相応のセキュリティ対策が必要

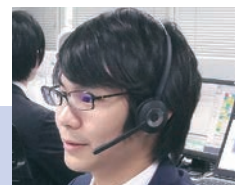
※1：ユーザー様側から接続してデータを送受信する通信方式

※2：データを保持している側から接続する通信方式。ユーザー様が送信するデータの場合、ユーザー様側から接続します。ユーザー様が受信するデータの場合、ファイネットから接続します。

◆『よくあるお問い合わせ (FAQ)』をリニューアルしました!!

ヘルプデスクに日頃寄せられる、よくあるお問い合わせ (FAQ) の内容をリニューアルしました。

ホームページの右上にあるバナーをクリックいただくことで、ご利用いただけます。是非、ご活用ください。



ご不明な点がございましたら、私たちファイネット ヘルプデスクまでお気軽にお問い合わせください。

☎ 0120-091-094 (受付時間 7:30～23:00)

「2018年度ファイネットユーザー会」を開催いたします

当会はファイネットの取り組み内容のご紹介とともに、ユーザー様間の親睦を深めていただく目的で、毎年開催しております。

2018年度は5月22日（火）に東京での開催を予定しております。

詳細は別途ご案内申し上げます。皆様のご参加を社員一同お待ちしております。（営業推進部）



2017年度ファイネットユーザー会（於：東京ロイヤルパークホテル）

FINE FINETの送付先等の変更について

今回、ご送付いたしております「FINE FINET（ファイン・ファイネット）」の宛名や部数の変更等がございましたら、右記までご連絡ください。

【連絡先】 株式会社ファイネット 営業推進部
Tel.03-5643-3450
e-mail marketing-promotion@fnet.co.jp（総務部）

ファイネットへのお支払は、お得で便利な「預金口座振替」をお勧めします

弊社では、お支払方法に「預金口座振替」がございます。この機会に、是非ともご検討いただければ幸いです。

【ご利用のメリット】

- (1)お振込手数料はお客様負担となりますが、振替手数料は弊社負担でございます。
- (2)月々のお振込手続きが不要になり、業務の簡略化が図れます。

【お申込方法】

- (1)弊社、手続きサイトからお申込みください。
手続きサイト URL <https://www.fnet.co.jp/fts>
- (2)手続きサイトのご利用方法がご不明の場合のお問い合わせ先

【ファイネット ヘルプデスク】

 **0120-091-094**

（年中無休 7:30～23:00）（総務部）

ご担当者情報を最新の状態に保つためにご協力をお願いいたします

弊社では、サービスに関する重要なお知らせをお届けするため、ご加入ユーザー様にはデータ交換に関する窓口の登録を行っていただいております。

お忙しいところお手数をお掛けしますが、手続きサイトより「担当者登録状況」をご確認のうえ、ご担当者の登録情報に変更がある場合は、お早めに手続きを行っていただきますようお願いいたします。

【お申込方法】

- (1)弊社、手続きサイトからお申込みください。
手続きサイト URL <https://www.fnet.co.jp/fts>
- (2)手続きサイトのご利用方法がご不明の場合のお問い合わせ先

【ファイネット ヘルプデスク】

 **0120-091-094**

（年中無休 7:30～23:00）（運用管理部）



FINE FINET（ファイン・ファイネット）
Vol.45 2018 Winter 2018年1月1日発行

【発行】（株）ファイネット 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町13-2 兜町偕成ビル7階
Tel.03-5643-3400 Fax.03-5643-3499

【編集・発行責任者】小原 応孝



<https://www.fnet.co.jp>